

新型コロナウイルス感染症と埼玉大学

薄井 俊二

日本教育大学協会からの依頼は「教員養成系大学・学部の地位向上と教大協に関連したことについて」であったが、この2年間、新型コロナウイルス感染症対応に力を注いできたことから、そのことを中心に埼玉大学での状況や取り組みについて報告することで、責を果たすこととしたい。

1. 新型コロナウイルス感染症と埼玉大学・教育学部

2019年度に発生した新型コロナウイルス感染症への対策として、本学では「危機対策本部」を中心に対応にあたった。教育学部でも、学部執行部と教職員が協力し合いながらの対応であったが、初めて直面する課題であり、試行錯誤や「走りながら作る」といった対応に追われた感は否めない。しかし、全教職員協力しながら、なんとか乗り切ってきたように思う。この間の経緯を報告したい。

(1)2020年度

最初の感染拡大が広まるなか、2020年2月28日、政府から、小中高校について、3月2日から春休みに入るまで臨時休校とするよう要請があり、埼玉県も県内の学校に対しその要請を通知した。本学では、小学校・中学校に加え、幼稚園・特別支援学校も臨時休校とした。休校期間中は、教諭が子どもや保護者と連絡を取ったり家庭訪問をするなど、つながりを保つようにつとめた。卒業式については、実施するか否かについて、学部をあげて相当議論をしたが、結局、四校園とも、規模を縮小して実施することとした。来賓なしで、代わりに学長や学部長の「祝辞・祝電」を紹介、保護者出席は最小限とし、時間短縮など切り詰めた式典とした。こうした簡素化は、それなりに評判がよく、コロナ以後の式典のあり方に参考となるのではないかと。

2020年度が始まるが、埼玉県は、4月7日から政府による緊急事態宣言発令下、埼玉県による緊急事態措置下となる。埼玉県からの要請もあり、宣言・措置下においては、学生の学内への入構を禁止とし、入構させたい場合は、指導教員が学部長へ届け出て許可を得ることとした。授業開始は二週間延期、すべて遠隔授業とした。キャンパスから学生の姿が消え、異様な雰囲気の日々であった。

宣言・措置は、延長を繰り返しながら、5月25日までで解除となる。授業は実験・実習・実技等に限り、対面も認められるようになり、学生の姿がちらほら見えるようになった。第二波期間中の8月、埼玉大学関係者の初めての感染が確認された。

宣言・措置解除後は、次第に対面授業が増えていったが、第三波が到来する中で、2021年1月8日、再び緊急事態宣言下となる(3月21日までで解除)。埼玉大学関係者の中でも感染が広がり、集団的感染を疑わせる事態も生じた。サークル活動等の制限をおこないつつも、入構禁止の措置はとらず、1・2月の授業については慎重な対応での実施とした。

教育学部の重要な教育活動である教育実習については、5月中心に実施する前期実習と9月を中心に実施する後期実習とがある。2020年度は、前期実習はとりあえず延期とし、文部科学省からの特例措置の指示が出た後に、9月以降に前期分も併せて実施した。実習期間を当初の4週間から3週間に短縮、

大学教員の研究授業出席も原則なしとし、実習生は事前にレントゲン検査を行って問題がないことを確認してから実習を行う体制をとった。若干の行き違いがあったものの、のべ618件、すべての教育実習を行うことができた。受け入れ校並びに教育委員会等に感謝いたしたい。介護等体験については、8月に文部科学省から出された代替措置で対応することとなった。

秋に実施する大学院の入試、学部の推薦入試については、宣言下ではなかったため、十分な対策をとりつつ実施したが、1月の共通テスト、2～3月の個別試験については、特段に慎重な対策をとっての実施となった。

附属学校園では、休校期間中は遠隔授業を取り入れ、登校開始後も時差登校をするなど感染対策を行った。行事は厳選・簡素化し、夏休みを短縮して授業時間の確保につとめた。

(2)2021年度

2021年度は、すぐに第四波となり、4月20日、埼玉大学が位置するさいたま市が、まんえん防止等重点措置の対象となる。埼玉大学関係で一ヶ月に20名を超える感染者を数えるなど、感染拡大が見られた。実験・実習・実技等以外の授業は、原則遠隔ではじまった。この措置の延長が繰り返されているうちに、第五波の感染拡大となり、8月2日には、埼玉県全域を対象とする三度目の緊急事態宣言へ格上げとなった。

10月からの後期については、感染状況の改善も見られ、かなり対面授業を増やしての授業開始となった。しかし、2022年の1月中旬から、急速な感染拡大が広まり、さいたま市は、1月21日、再びまんえん防止等重点措置の対象となった。埼玉大学関係者でも感染者が急増し、特にそれまで極めて少数であった附属学校園の子ども達への感染が広がった。学生の感染も増え、1・2月はそれぞれ本学関係者150名程度の感染者を出した。一方、オミクロン株による感染で、若年層への感染が広がるものの、弱毒化しており、感染後数日もたたないうちに平熱となったり、陽性が確認されたものの、ほとんど発症しないケースも多くあった。そのため、授業は対面から遠隔に切り替えるなどの強い措置はとらず、感染対策を講じつつそれまで同様の授業形態を続ける道を選び、大過なく授業期間を終えることができた。

教育実習については、期間を三週間としたものの、予定通り、5月から実施を開始し、事前にPCR検査の受検を行い、陰性を確認したものだけが実習を行うこととした。9月以降の後期も含め、のべ641件の実習を全て実施できた。介護等体験については、代替措置が出されることを予想し、あらかじめそれへの対応体制をとった。

入試も十分な対策をとりながらの全面実施とした。

附属学校園でも、規模は縮小しつつも、宿泊活動も再開し、学校生活の正常化へ向けて少しずつ進み始めた。

3月24日には大学の卒業式をさいたまスーパーアリーナで挙行。2,000名が集う大きな集会は二年ぶりであったが、静かな雰囲気の中でも和やかさが感じられ、卒業・修了する学生たちからは、みんなと一緒に卒業式を行える喜びが感じられた。

本学の全学生教職員数は、附属学校園の子ども達も含めて約9,000名超である。2020・2021年度2年間の感染者類型はおよそ500名であり、感染率 5.5%程度であった。

(3)2022年度

2022年度に向けては、授業も全面的に「対面原則」となった。

入学式も挙行された他、入学式が無かった、2020年度と2021年度の入学者に対して、「入学生歓迎式」が行われ、学生と保護者1,200名が参加した。

4月からは対面授業中心の授業が始まり、キャンパスに学生の姿があふれるという、コロナ以前の状況が再現されている。“With Colona”の時代に突入したことを改めて感じている。

2. 学生支援をめぐる

コロナ感染症拡大の中、埼玉大学として、埼玉大学関係者や広く地域社会からの協力も得ながら、学生に対する様々な支援を行ってきた。その一部を紹介する。

(1) 埼玉大学緊急支援奨学金の支給

この事業は、保護者の収入減やアルバイトの激減などにより、学生生活を送る上での困難に直面する学生に対して現金を給付する奨学金制度である。2020年度は、財源として、広く寄付を募ったところ、一般の方から6,500万円の寄付があった。これに既に修学サポート基金に積み立てられていたものを加え、7,146万円を原資として、自宅学生(三万円)437人、自宅外学生(五万円)1,167人に奨学金を支給できた。2021年度は、自宅学生295人、自宅外学生976人に奨学金を支給することができた。

○寄付者からのメッセージ

「アルバイトをしながら経済的に苦しかった学生生活を体験した者として、現在の学生の皆さんが置かれている大変な状況はよくわかります。学生の皆さんが引き続き埼玉大学で勉学に励み卒業できることを心より願っております。」(卒業生)

「いつも熱心に学ばれている皆さまに元気をいただきながらお仕事をさせていただいています。ささやかですが、日頃の感謝の気持ちをお届けします。」(教職員)

「縁あって昨年から埼玉県民になりました。少額ですがせめて学生さんの一冊の本代になればと思います。」(一般の方)

○学生からの感謝のメッセージ

「奨学金をご支援いただき、ありがとうございました。頂いた奨学金で、やっと教科書を買えました。卒業後も大切に使用します。」

「コロナウイルスによりアルバイトをしていた塾が休業し、生活に困っていましたが、皆さまのおかげで今後も学業を続けられそうです。頂いた金額以上に皆様や社会に還元できるよう、より勉学に励んでいきたいと思えます。」

「埼大OB・OG、一般の方、教職員の方々からご支援をいただき、多くの人に支えられている埼大生としてとても誇らしく思いました。」

(2) コロナ禍フード支援プロジェクト「100円食堂」

こちらは2021年度に行った支援で、一食100円で、定食や丼物を提供する支援である。学生は事前にチケットを購入し、日替わりの定食か丼物を選ぶことができる。一食451円分の食費のうち、学生負担の100円以外の351円分を寄付金から拠出することとし、約13,000食分(530万円)を目標に、クラウドファンディングによって寄付を募った。結果367名の方から目標を超える寄付をいただいた。

○学生からの感謝のメッセージ

「クラウドファンディングにご協力いただいた方々、本当にありがとうございます！おかげさまで、食費をあまり気にすることなく、学生生活を送ることができました。これからもがんばります。」

「オンラインの授業が多く、外に出る機会が少ない中、友達と一緒に食事したり、大学に行くきっかけのひとつになっています。ありがとうございます。」

「一人暮らしをしているため、栄養のある食事を100円で食べることができて本当に助かっています。関係する全ての方に感謝します。」

*卒業生や教職員からの支援の外に、直接埼玉大学に関わりのない方からも応援をいただいた。埼玉大学が地域社会からも注目され、期待されていることを強く感じる。こうした、期待に応え、成果を社会に還元し、社会に貢献できる大学であらねばならないと改めて考えた次第である。

*学生たちは、感謝の気持ち、支援を糧に次には自らが支援者となる決意、そして多くの人に支えられている埼玉大学生としての誇りを表明している。こうした立派な考えを抱いている学生諸君について、われわれも誇りに思うところである。

(埼玉大学教育学部長)